2008 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
日本文学史Ⅰ	文学部日文２回生	鈴木　利一

授業テーマ
古今集以前の日本文学史

授業の概要と目標
仮名文字以前の文学の流れを、各作品の内部構造を探りつつたどります。対象とするのは、文字を持たなかった日本文学が外来文化との出会いと摩擦の中で、記載文芸という新しい様式を生み出した時代です。その葛藤と達成の過程を、実際の作品に即して解説していきます。

評価方法
講義への出席状況（40%）、課題の提出状況（40%）、課題に取り組む姿勢（20%）等を勘案し、総合的に判断します。

テキスト	著者	出版社
『補訂版　萬葉集　本文編』及び講義時配付資料	佐竹昭宏・木下政俊・小島憲之	塙書房

参考書	著者	出版社

授業スケジュール・内容

この講義では、文学が主として、歌い、語り、聞くものだった時代から、書記し、読む時代へと変遷していった日本文化史上、非常に大きな転換点となった時代を扱います。固有の文字を持たなかった日本文化が、漢字と出会うことで何を獲得し、どう展開していったのかを、仮名文字以前の文献を対象とすることで確かめてみたいと考えています。
対象とする作品は以下の通りです。

1. 口承文芸と漢字の伝来、記載の始まり（1 回）
2. 古事記の構造と成立（2～4 回）
3. 日本書紀の構造と成立（5～6 回）
4. 萬葉集の構造と成立（7～11 回）
5. 風土記の構造と成立（12～13 回）
6. 氏族伝承文芸の展開（14 回）
7. 国風暗黒時代の文学（15 回）

必要に応じて、遣唐使をはじめとする遣外使や渡来人達のもたらした、外来文化による社会変化や制度・文化の変遷が文学に与えた影響等についてもお話しする予定です。